

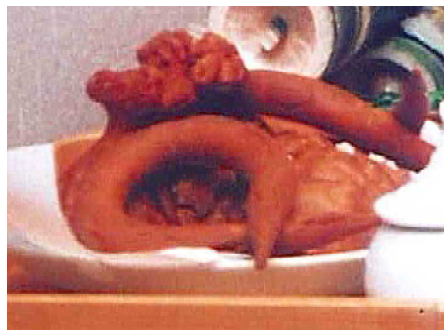
講社通信

近江神宮日供神饌講
新版第二十二号
平成二十七年七月一日

本年の日供神饌講社大祭・饗宴祭は、六月三十日、大津市講元講員の皆様により大膳職以下所役をご奉仕いただき、賑々しく齋行できました。ご報告とともに講員の皆様に厚く御礼申し上げる次第です。

饗宴祭特殊神饌 古式菓子

現今の和菓子は江戸時代に集大成され、各地でさまざまなものが作られるようになりましたが、それ以前は遥かに素朴なものでした。古く、菓子は菓子とも表記され、木の実や果物のことをいいました。ドングリのような木の実を砕いて粉にし、水に晒すなどしてアクを抜き、丸めて加熱して食べたのが団子の始まりともいわれています。また、水に浸した生米を搗き固めた糍（しとぎ）が餅の原型ともいわれ、各地のお供え物や郷土料理として伝えられています。



まがり(手前)・団喜(上)・ぶと(まがりの後)

その後、飛鳥、奈良時代、遣隋使・遣唐使が大陸からもたらした品物の中に、唐菓子といわれるものがあり、油で揚げるといいう製法が伝わりました。唐菓子とは米や麦をこねたり大豆・小豆に塩・醬（ひしお 味噌の元祖）を加え、胡麻油で揚げたドーナツの原型のようなものです。蔦の葉を煮詰めた古代の甘味料である甘葛（あまづら）も用いられました。平安時代の辞書である『和名抄』などには、「梅枝（ばいし）・桃枝（とうし）・鯛鯛（かつこ）・桂心（けい

しん）・黏臍（てんせい）・饅饅（ひちら）・錠子（ついし）・団喜（だんき）」という「八種の唐菓子」が挙げられ、「うるちの粉に甘きものを加へてつくねさまさまの形に造り多くは油にあげたるものなり」と書かれています。現今では廃絶したものが多くありますが、煎餅のように形を変えつつ現今まで残っているものもあり、うどんやそうめんの原型といわれる素餅（さくべい）、鶯鳥や鴨の卵と野菜を煮合せて餅で包んだ餅餠（へいだん）のようなものも書かれています。これらのなかには今も古社の神饌として伝えられているものもあり、なかには和菓子店で商品として作られているものもあります。これらのなかで、饗宴祭には、餠餠（ぶと）・糍餅（まがり）・団喜の三種をお供えしています。

弘文天皇をまつる鞍掛神社

弘文天皇をお祭りする神社が大津市内にいくつかありますが、そのうちのひとつに、近江神宮の宮司が兼務している鞍掛神社があります。堅田衣川の裏山のような丘陵地に鎮座していますが、近年は全く住宅地となり、住宅街の中の神社となっています。



壬申の乱で瀬田橋の戦いで敗れた弘文天皇・大友皇子は、長等の山の前（さき）で自害されたと日本書紀には記されていますが、地元では、衣川の屋敷まで逃げ伸び、ここで馬の鞍を下ろして柳の樹の枝に掛け、その場で悲壮な最期を遂げられたといわれています。随従してきた二人の侍臣はこの地に帰農して御神霊を奉斎し、その

後、平安時代初期の元慶六年（八八二）、陽成天皇の勅命によって社殿を造営し、鞍掛神社を創建しました。侍臣の子孫は中村を姓とし、中村一族が子々孫々連綿と相伝え千三百年にわたって祭り続けてきたと伝えられています。その間、平安末期、源義朝が武運長久を祈願、その子頼朝が社殿を改修したとの伝えもあります。

氏は現在も八軒の中村一族だけで、近江神宮創建間もないころに、その由緒に鑑みて宮司が兼務するに至りました。

近江神宮の弘文天皇祭はその崩御の日の七月二十三日を太陽暦に直した八月二十四日に行われていますが、鞍掛神社ではそのままの日付の七月二十三日を期して例祭が行われてきました。現在は原則として第三日曜日に行われています。

献茶祭の茶釜

六月九日、毎年献茶祭が行われ、裏千家の家元または前家元により献茶をご奉仕いただいておりますが、もともとは翌十日の漏刻祭のなかで行われていたものです。昭和十六年の第一回の近江神宮の漏刻祭から裏千家の家元による献茶が行われていたのですが、お茶の関係者の参列があまりに多くなったために昭和三十六年から前日に行うようになりました。

近江神宮の名前と社紋の入った茶釜が、一昨年の献茶祭を前にした六月の初め、東京在住の方から送られてきました。皇紀二六〇一年の年と近衛文麿公の揮毫である旨の記載があり、加賀



藩のお抱え釜師であった宮崎寒雉（第十二代）の作の銘のあるものです。裏千家の大宗匠によると、昭和十六年の最初のお献茶に先立って、現にお献茶で使っている茶釜と同じものが予備のものとしてもう一つ作られ、何かの経緯から献納いただいた方が所持されていたのではないかとのことでした。



6月10日の時の記念日には、境内に設置してある古代火時計の線香に火をつけ作動する様子をご覧ください。写真をよく見ると龍の背中の線香の右端から煙が上っているのがわかります。

燃え進むにしたがって糸が切れ約2時間ごとに銅鑼が鳴ります。

- 七月七日午前十一時 燃水祭
- 七月十九日・二十日 全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会
- 八月二十三日午後一時 献書祭（全国献書大会表彰式）
- 八月二十四日午前十一時 弘文天皇祭
- 十一月七日午前十一時 御鎮座記念祭
- 十二月一日午前十時 初穂講大祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/>「日供神饌講」ページ